

# 住民の安心・安全の確保を誓う

1月20日、町消防団の出初式が、雨天のため池川体育館を会場に、青木幸雄団長以下約218人の団員が参加して行われました。

階級の異動があった団員と、新入団員4人に辞令が交付され、続いて本年度退団された松本松太郎さん（前池川分団班長）に、長年の功績をたたえ感謝状と記念品が贈呈されました。

平成19年中に、それぞれの管轄区域において火災が1件もなかった10分団に対し、日ごろの防火啓発活動に敬意を表し、無火災報償が贈られました。

団員たちは防火に対する決意を新たにするとともに、地域住民の安心・安全の確保を誓いました。

## 無火災報償（10分団）

池川・用居・狩山・安居・森・長者・泉川・高瀬・名野川・寺村



消防団出初式

あいにくの雨で体育館での開催となりました



新入団員

## 救急出場件数が過去最高に

高吾北消防本部では、平成十九年中の火災・救急・救助出動状況をまとめました。

### 火災概況

火災件数は二十二件で前年よりも一件増加、損害額は前年の半分に減少していますが、五千万円を超える額となっています。

（表1）

前年はゼロであった死者が三人発生し、いずれも住宅火災による犠牲者となりました。

火災の原因としては、たき火関係が四件で最も多く、次いで電気機器によるものが三件、ガスコンロ、子どもの火遊びがそれぞれ二件で、以下放火の疑い、いろいろの火など火花によるものが続き、原因を特定できなかつた火災が六件ありました。

### 救急出場状況

救急出場件数は前年よりも百八十件増加、搬送人員も百四十人増加しており、消防発足以来最も多い件数となりました。（表2）

一日当たりの平均出場件数は四・二件となっています。

表1 火災発生件数と損害額

町名	平成18年中		平成19年中	
	件数	損害額（千円）	件数	損害額（千円）
佐川町	9	1,280	15	35,641
越知町	7	110,770	2	0
仁淀川町	5	1,839	5	18,843
計	21	113,889	22	54,484

# 地震の恐ろしさや災害に対する備えを学ぶ



起震車で大地震級の揺れを体験



婦人防火クラブの炊き出し

## 大崎小で防災学習会

いつ起きても不思議ではないといわれている大地震。起震車での地震体験や炊き出しなどにより防災意識を高めてもらおうと、一月十一日、吾川地区地域防災学習会（主催・町教育委員会）が大崎小学校で行われました。

学習会には大崎小学校全児童と教職員、大崎・寺村婦人防火クラブや地域の方々などが参加。まず婦人防火クラブによる炊き出しで、全員がおにぎりや豚汁を試食した後、震災ビデオを視聴しました。児童たちは真剣なまなざしで見入り、地震の恐ろしさや災害に対する備えなどを学習しました。

震級の揺れを体験。児童たちは四人ずつ起震車に乗り込み、揺れが発生すると机の下に素早くもぐり、揺れがおさまるのをじっと待ちました。本番さながらの揺れに児童たちは驚きながらも、地震に対する意識を新たにしています。

続いて、起震車により大地

# 平成19年中の火災・救急・

また。また出場件数の増加に伴い、高次医療機関への救急搬送も増加し、高知市内の医療機関など、管外搬送人員が全体の約六割を占めています。二台の救急車が出場中にも救急要請が入るなど、即応しきれないケースが目立ってきています。



表2 救急出場件数と搬送人員状況

町名	平成18年中		平成19年中	
	件数	人員	件数	人員
佐川町	585	569	684	646
越知町	397	384	405	394
仁淀川町	367	364	441	418
管外	1	1	0	0
計	1,350	1,318	1,530	1,458

## 救助出動状況

救助出動状況件数は三十六件で、前年より六件増加しています。（表3）

出動件数の内訳は交通事故が十七件、労働災害が二件、一般負傷が六件、その他の事故が六件、自損行為が五件となっています。



表3 救助出動件数

町名	平成18年中	平成19年中
佐川町	14	23
越知町	8	7
仁淀川町	8	6
計	30	36

# 仁淀川町を調査・研究

## 仁淀高校生が発表会

一月十七日、仁淀高校で「総合的な学習の時間」の発表会が行われました。

1. 仁淀川町のバリアフリーを考えよう
2. 仁淀川町の地場産品を考えよう
3. 仁淀川町の歴史研究



発表の様子

4. 子どもの遊び文化
5. 畑作り・郷土料理作り
6. 郷土芸能に触れる
7. 仁淀川の環境調査
8. 仁淀川町CM制作
9. 仁淀川流域の方言調査

このうち仁淀川流域の方言調査のグループは、旧仁淀村の五地区と旧柳谷村を訪れ、十一人の高齢者から聞き取り調査を行いました。

例えば「ものもらい」は形部地区では「メボウ」、旧柳谷村では「メイボ」と言うなど、地域によって言い方の違うものを調査したり、高齢者との会話を録音し、それを一字一句文字化するテープ起こしをしたりしたことを発表。「少し場所が離れただけで、方言やイントネーションが違っていている。高齢者からは方言だけでなく、昔の遊びや戦争中の話など、普段聞くことのできないことが聞けて良い経験になった」と感想を述べていました。

## 地域教育便り

### 待ってたよ！海の友達

1月10、11日、名野川小学校と、幡多郡大月町の一切小学校との交流会が行われました。

両校の出会いには平成14年、それ以後お互いの交流を深めてきました。4年前から毎年名野川小学校は、夏の合宿で一切小学校を訪問してきましたが、名野川小学校での再会は3年ぶりのことでした。

1日目の発表会では、名野川小学校がマージル、一切小学校が太鼓を披露し、最後は全員で「南中ソーラン（運動会でアンコールのあった踊りです）」を踊りました。振り付けが違っているところは、お互いを気遣うなど、大変ほほえましい場面がありました。夜には、宿泊先の「しもなの郷」で天文教室と盛りだくさん。



絆が深まった交流会

2日目は一緒に念願のスキーに行ってきました。残念なことに、天候が悪く、早く別れることになりましたが、楽しい体験を通して山っ子・海っ子の絆がまた深まりました。

子どもたちの人数は少なくなっても、こうしてどこかと、誰かとつながっている糸が、これからも紡がれていくことを祈りたい気持ちです。

### 吾川中学校生徒が 図画コンクールで入賞

第八回「未来に残そう青い海 図画コンクール」(主催 海上保安庁) 中学生の部で、吾川中二年生の掛水祐幸君が高知海上保安部長賞を、同じく二年生の大野美咲さんが優秀賞を受賞しました。

十二月十八日には、高知海上保安部山下博睦次長らが吾川中学校を訪れ、受賞者二人に賞状と副賞を贈りました。青く美しい海を伸びやかに描いた二人の作品について山下次長は「素晴らしい作品。山間部の生徒が入選するのは珍しい」と話していました。



海上保安部の帽子をお借りして記念撮影する掛水君と大野さん

# 集落見聞録

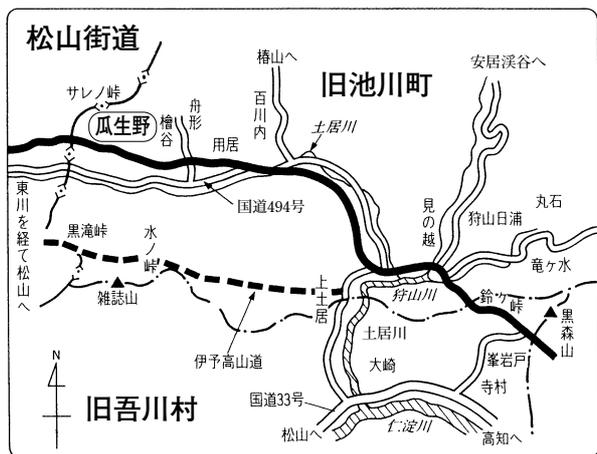
(第25回)

## うりゅうの 瓜生野

瓜生野は池川総合支所から車で約三十分、県境(久万高原町)に接する険しい山に囲まれた集落で、十二月三十一日現在九世帯十一人、ほとんどが高齢者であり一人世帯となっています。

その昔、土佐と伊予を結ぶルートとして松山街道がありました。佐川、越知を経た街道は黒森山の中腹から鈴ヶ峠を越え池川から伊予に入りま

す。瓜生野もこのルート上にありました。(下図参照)



### 集落の守り神を祭る神社



岡山二社神社



琴平神社

## 山合いにひっそりとたたずむ集落

**住み慣れた土地でいつまでも**

昭和四十年には四十世帯百五十人を超え、豊年まつりや相撲大会、太鼓踊りなどの行事も多く、にぎわいを見せていましたが、人口の減少とともに廃れていきました。

また交通の便も悪く、冬は積雪することも。生活に不安を感じることはないのでしょうか。

区長の山田政森さんは「高齢者ばかりだが、九十四歳の最高齢者を含めみんな元気。みんな助け合って生活しゅうよ」と話してくださいました。また八十年代の女性の方は「やはり瓜生野で暮らすのが一番。移動スパーが週に一度来てくれるし、病院に行くのは町のコミュニティバスを利用して行けます。不便さは感じていません」と話していました。



区長の山田政森さん



岡山二社神社内の彫り物

### 集落の守り神を祭る神社

内部に立派な彫り物がある岡山二社神社。神祭は7月10日と11月10日。昔は境内で相撲が行われるなど大勢の人が集まっていました。

また岡山二社神社の近くには、琴平神社もあります。この神社の周囲では、戦時中には競馬が行われていたそうです。

# 準備万端 秋葉まつり



秋葉まつりが近づいてきました。  
本番を待つばかりです。



霧之窪組



本村組

## ならし

年が明け、一月五日から土・日曜日に「ならし（太刀踊りや鳥毛の練習）」を行いました。普段は静かな山里が活気づいてきました。

## 初挑戦の子どもたち

今年初めてまつりに参加する五人の小学生。大先輩方に手取り足取り指導してもらいました。



## まつりの名物

### 油売り

まつりの道化役油売りは、自由気まま、神出鬼没でまつりを盛り上げます。ただし市川家と秋葉神社では神楽を舞う大切な役があります。

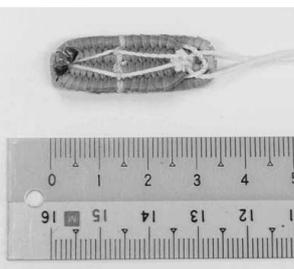
またまつりの行列とは別行動をとり、一足先に次の目的地に行き、見物客を飽きさせないように、ひょうきんな行動で笑いを誘います。まつり名物の「ミニさいはら」の販売も行っています。



### ミニわらじ付きお守り



中田幸三さん



長さ3拵のわらじ1足がお守りにつきます

秋葉神社のお守り売り場では、ミニわらじ付きの交通安全のお守りを買うことができます。  
中田幸三さん(太田)が丹精込めて作ったわらじは、長さ約三拵。一足を仕上げるのに、約四十分がかかります。  
昨年は五十個を売り場におきました。あつという間に売り切れたため、今年には三百個を用意しています。  
ご利益がありますように。

# 本番間近

2月11日



200有余年の歴史を刻む、秋まつりの準備は着々と進み

## 新調された

## どてらとかぶと

### どてら

まつりの人気者「油売り」の衣装が古くなったことから、昨年十二月に新聞紙上で昔、布団によく使われた格子柄の布の提供を呼び掛けたところ、町内外から二十数件の問い合わせがありました。

今回、提供された布を使い、霧之窪組と沢渡組の衣装が新調されました。



霧之窪組のどてら

### かぶと



新しいかぶとで頑張ります！

秋葉神社祭礼練り保存会では、平成十九年度宝くじ助成事業を受け、秋葉まつりで使用する踊り子用の甲(かぶと)を新しく購入しました。

この事業は財団法人自治総合センターにより、地域コミュニティの健全な発展を図るとともに、宝くじの普及・広報を目的として行われており、皆さんが購入された宝くじの収益金が財源となっております。

甲は練りの行列を構成する、沢渡・本村・霧之窪の三集落に八具ずつ整備され、今回のまつりで早速お披露目されます。



宝くじは、広く社会に役立てられています。

## 秋葉俳句募集

### まつりの感動を 俳句にしてみませんか？

今年の秋葉まつりにちなんだ俳句を募集します。

未発表の作品一人三句まで、住所、氏名を明記して、二月二十日(水)までにはがきか封書で郵送してください(当日消印有効)。

あて先 781-1801

仁淀川町森四二三二

仁淀公民館

☎32-1041

### ☆賞

特選、入選、佳作を広報紙上で発表し、入選までの方に賞状と副賞を贈ります。

### ☆選者

池野いちび

### ☆主催

仁淀俳句会

### ☆後援

仁淀公民館  
仁淀文化推進協議会

## いりもち

秋葉食生活改善グループのいりもちは、香りのよいヨモギがたっぷり入っています。毎年好評で、早々に売り切れてしまいます。

グループでは、まつり前日まで、いりもちづくりに追われています。

